

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301893		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム あいの里 吉		
所在地	福島県郡山市片平町字新蟻塚80-1		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方にとって、やすらぎの場所、ほっとできる場所、落ち着く場所、入居者の方を中心とした生活を考えています。グループホームにしながら、自宅にいるような過ごしやすさを感じて頂ける様に目指しています。一人ひとりが、「働いている」「生きている」力を最大限に活かせる生活、五感を感じて頂ける生活、行事を通じて四季を感じられる生活、一人ひとりの感情が表現できる生活を目指して、日々取り組んでいる。一年に一回、入居者様一人ひとりに、誕生会を企画し、手の込んだ料理や楽しい余興など行い入居者様に喜んでもらえるような企画を行っています。また、かかりつけ医、認知症専門医、訪問看護師と連携を図り、その方が最後まで自分らしく生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所理念に基づいたサービスを徹底するため、全体会議やユニット会議の中で理念やユニット目標を確認し、各職員が輪番で意見(取り組み目標)を発表しながら、理念を共有し、利用者本位のサービスに繋げている。
2. 利用者一人ひとりに誕生日会を催し、楽しんでもらえるよう家族や友人・知人を招待したり、好きな物や思い出にちなんだ特別のご馳走やプレゼント、余興の演出でお祝いしている。
3. 24時間いつでも入浴をモットーとし、一人ひとりが望む時間に入浴を楽しめるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に添って、職員同士共有し、実践出来る様、日々のケアに努めている。	事業所理念・ユニット目標を職場内に掲示している。全体会議の中で理念を確認し、各職員が理念に沿った支援が出来たか、輪番で発表しながら共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶を基本とし、近隣の方や通行人との会話や挨拶を通じ植物の苗や野菜を頂いたり昔ながらの近所付き合いなど行っている。	地区敬老会への参加や買い物、美容院に出かけたり、散歩の際に、地域の方と挨拶を交わすなど日常的に交流している。また、事業所行事(敬老会・芋煮会等)開催時に、ボランティア受入れや近隣の方を招待し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会を通じて地域住民に足を運んでもらい、入居者の方との交流・ふれあいを通じ、認知症の方の理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二カ月に一度開催しており、社長・地域包括支援センター・民生委員・ボランティア・相談員様に参加頂き、意見を頂いている	運営推進会議は定期的開催されている。会議では、事業所の実情や利用者状況、事故・ヒヤリハット、行事報告を行い意見交換しながらサービスの向上に努めている。しかし、家族又は利用者が選任されておらず、委員の出席率も低い。	運営推進会議委員の参加率の向上と、家族の参加が得られるよう検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、郡山市の相談員さんが来所され、入居者様と談話されたり、歌を歌われたりされている	市の相談員受け入れを行い、三者会議(行政・相談員・事業所)への出席や定期報告、介護保険更新・オムツ券手続や相談等を通して協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間(20時～翌朝7時)帯、職員一人で見守りの為、施錠している。日中は自由に入りできるようにし、一人一人入居者様にあった関わりをしている。	研修会や各種会議の中で、不適切ケアチェックを基に、身体拘束の具体的な行為やその及ぼす影響について話し合っている。帰宅願望の強い利用者には見守りや散歩で気分転換を図る等、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止など会議等で話し合いを行っている。また、虐待が見過ごされないようにスタッフ・ご家族の方と話す機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度制度を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更点があった際は、必ず通知している。また、運営推進会議等にて説明を行い、同意書を頂き理解・納得を図っている。わからない点があれば、いつでも質問できるように連絡場所・人等を明確にするように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見や要望など話せる場を設けている。また、会議録などに記録を残し、運営やケアに反映できるようにしている。	日常生活の中での会話や言動から利用者の意向や思いを把握するよう努めている。また、家族等には、行事開催時や面会の際に、意見や要望を聞き、全職員で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、全体会議、ユニット会議、その他話し合える場を設けている。	法人代表者や管理者は、日頃から職員の意見を聞くよう努めている。また、各種会議やミーティング等で職員の意見や提案を聞き、出された意見・提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談の時間を設け、反省、目標を話し合いをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修に参加し報告書で他の職員へ発進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査など事前調査を行いご本人やご家族の想いや生活歴などから情報を集めた上でご本人の求めているものや、要望などを踏まえ、より良い関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来所された際に情報共有に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、困っていることや今必要としていることを細かく集め、ご本人やご家族が納得できるケアを職員全体で話し合い、必要としているものを見極められる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一緒に行う事で信頼関係を築き、時にはお互いに頼りあう事で共に支え合える支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所時に生活状況の説明を行い、ご本人からご家族に希望があれば代弁を行い共に支えている。行事にもご家族様に参加案内を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いた家族やご友人など会話して頂けるよう支援に努めています。また職員もご本人の馴染みの方と会話する事で情報収集も行っています	家族や親族、友人・知人の来訪時は、お茶を出し、気兼ねしないで訪問して頂けるよう配慮している。また、家族の協力を得ながら墓参りや外食、事業所主催の小旅行に利用者と共に参加して頂く等、関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握したうえで、何事も一緒に行える環境整備を行い、一人ひとりが孤立せずに生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、ご家族様から相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや願いをその人その人で話やすい環境を整えチームで共有できるよう工夫して支援出来るよう努めているが、希望を完璧に叶えることでは、できないが希望に添えるよう努めています。	日常生活の中で、利用者の会話や言動等から、本人の思いや希望を把握するよう努めている。困難な場合は、家族や友人からの情報や表情・仕草等から意向を汲み取り、ユニット会議等で利用者の立場に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査など事前調査を行い、ご本人やご家族より生活歴やサービス利用歴など把握している。又、毎日の言動からも把握することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報交換、本人の現状や日々の過ごし方職員間で把握できる様、生活記録シートや申し送りシートに記録している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、担当者が行いそれを元に計画作成担当者がケアプランを作成している	担当職員が記録等を基に、モニタリング、カンファレンスを行い、家族等の意向確認しながら現状に即した介護計画を作成している。心身状態の変化時は、医師・家族・職員が連携した状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活をケース記録に記入し、何かある度ユニット会議で話し合い、1日2回申し送りを行い情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の性格や生活を尊重し既存のサービス枠に捉われないサービスを職員同士で話し合いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外出先での馴染みの関係作りや近隣の方々との挨拶などで入居者さまの能力を発揮出来る場所の確保に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	問題が発生した場合、ご家族や訪問看護師、主治医に連絡行い適切な医療が受けられる体制を整えている。	本人、家族の希望を取り入れ、かかりつけ医や協力医療機関で受診ができるよう支援している。また、状況に応じて協力医に往診を依頼し、訪問看護師と連携して、適切で安心した医療受診ができるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護で健康チェックを行っている。急変した場合、訪問看護に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、病院側と情報交換や状況を把握できる様努めています。また退院の前にカンファレンスを行い、その方の状況をチームで確認行い退院後の支援の方向性を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療機関と話し合い、方針をきめている。	入居時、重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し、同意を得ている。また、看取り期に医師から家族へ説明をし、同意を得て看取り計画に基づき、医師、訪問看護師、事業所が連携しながら、最後まで安心した生活を送れるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員救急救命講習やの避難訓練により急変時対応を学び万が一に備えられる様訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回(2回消防の立ち合い、2回自主訓練)を入居者様と共に行っている。	日中・夜間の火災及び地震を想定した訓練を実施している。消防署員によるAED講習会を実施し利用者の緊急時に備えている。また、食料を備蓄し安全を図っている。避難訓練後は消防署へ報告している。	運営推進会議委員や地域住民の参加協力を得て、避難訓練を実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人に合った声掛け、話し方を行っている。	毎月のユニット会議で、不適切ケアチェックリストを活用し、スピーチロック、プライバシーへ配慮等の話し合いを持ち、言葉かけや、利用者を尊重した対応をするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを表現できる環境をつくりを心がけ自己決定を出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースの把握を行いその方に合せた生活を職員間で協力し行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人らしい身だしなみが出来るよう前持って準備を行い、自ら身だしなみに気付けるよう支援している。また外出時やイベントの時には特別感の出るおしゃれや化粧をして頂けるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者の方が馴染みのある料理や調理、買い物など入居者の方と一緒にしている。	職員と共に、食材の買い出し、調理、下膳、洗い物等を一人ひとりの力を活かしながら行い、職員と食卓を囲み食事を楽しんでいる。また、卓上ホットプレートを利用した調理を行い、食への楽しみや意欲を引き出すよう工夫している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見を参考にその方に合わせた水分量や塩分などし摂って頂ける様を工夫している。また毎日献立を記入を行い栄養バランスが偏らないよう工夫しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後や就寝時、起床時に言葉掛けを行い場合に寄っては職員が代行して行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや誘導にてオムツの使用軽減に努めている。又は排泄のサインを見逃さない様努めている。	入居時、家族からの情報や観察によって排泄の習慣を把握し、一人ひとりの残存能力や排泄パターン、サインを見逃さないように配慮し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維を多く含んだ食材を提供し、対応している。便秘が続く時は、訪問看護に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に合わせた時間や入りたい時にいつでも入れる環境をつくっている。	24時間いつでも入浴をモットーとし、一人ひとりが望む時間に入浴を楽しめるよう支援している。また、入浴を拒否された場合は、タイミングを見計らって声かけをするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動は多目にとって頂いているが無理に活動を促さず、その方の生活習慣と体力に応じて休息をして頂き日中をさらに元気に過ごせるよう工夫し夜間は気持ちよく休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の情報を医師に伝える事により適切な薬の量や処方をして頂いている。処方に変化が見られた場合は申し送りを行い誤薬のないように行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活を個々に捉え、その方に合った楽しみ役割を行える様工夫してる。天気の良い日は、ドライブに出かけたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人が行きたいと希望があればその日に出かけられるよう工夫している。ご家族の要望があれば考慮し身体の不自由な方も出来るだけ希望に沿えるよう支援している。	本人からの希望を優先し外出支援を行っている。日常的な食料の買い出し、地域の散歩、ドライブ、年間行事の小旅行等外出の機会を多く作り気分転換やストレス解消を図っている。また、家族の協力を得て、墓参りや盆・正月に帰省をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様が管理出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話できる体制がある。手紙の書けない方は代筆を行ったり写真を同封する事で繋がりを絶やさないう工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が自ら心地よく過ごせる空間づくり出来るよう言葉掛けや清掃用具の配置を考えている。	天窓からの採光、室温の空調管理及び各居室ごとの加湿管理で流行性感冒の予防をし、また、居間の壁面には職員とともに作った作品、絵画を展示し、ひな壇飾り、つるし雛など季節感のある飾り付けをしている。また、玄関や居間、中庭のウッドデッキには、ベンチ、椅子が置かれ、気分により居場所が選べるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関、キッチン等にベンチや椅子を設置しセミプライベートになる空間で寛げる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族の写真や好きな物や使い慣れたものなど馴染みの物を配置行い、心地よい空間づくり出来るよう工夫している。	テレビや家具、写真、位牌など個人の希望や状況にあった物を持参したり、誕生日に職員とともに作成した大作品を壁面に飾っている居室もある。また、一人ひとりの身体状態に合わせたベットを使い分けし、その人らしく居心地の良いものになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が出来ない事でも「自分で出来る」と思えるよう支援行い自立感を持って頂けるよう工夫している。また他者に何かをやってあげたいと言う気持ちを尊重し危険が無ければ見守りだけを行っている。		